

ばれいしょ (ナス科)

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	浴光催芽 植付け 培土 □ — □ ○ — ○ ————— △ ————— (30日)																		収穫：10月上旬		
※地温が10℃以上になってから植付けると、萌芽も早く、その後の生育も順調。																					

表1 主な品種 (生食用)

品種名	早晩生	栽培適正
ワセシロ	早生	肥大が早く大粒で中心空洞少ない。ホクホク感高い。中標津町では「伯爵」と呼んでいる。
メイクイン	中生	長卵形で肉色は淡黄色。塊茎位置高めで露出しやすいので深培土する。
キタアカリ	中生	長卵形で肉色は黄色。塊茎位置高めで露出しやすいので深培土する。
花標津	中晩生	偏球形。皮色は淡赤。疫病に非常に強い。

1 栽培管理

①畑の準備

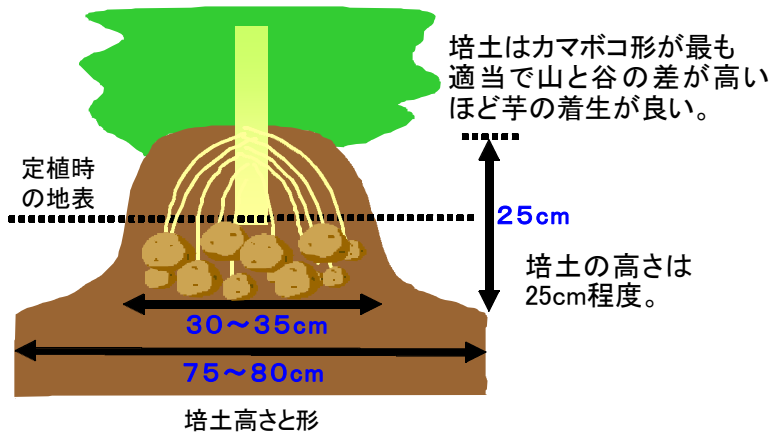
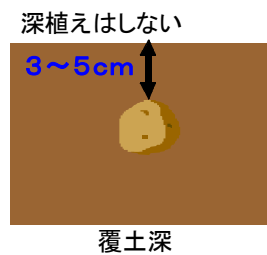
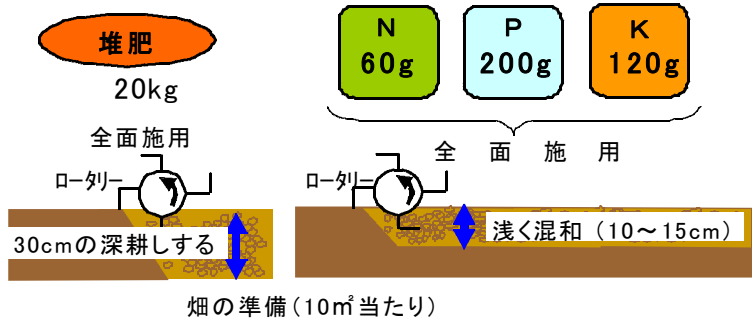
- ・栽培密度は畦幅75～80cm×株間30～35cm、畦幅を広げ培土をしやすくします。
- ・良質種子を入手 (10㎡当たり2kg) し、浴光催芽をして丈夫な芽を育てます。

※浴光催芽：気温10～20℃、約25日

間浴光し、1cm程度の紫の強い芽を出します。高温に注意します。

②定植

- ・植付けの深さは3～5cmの浅植えとし、萌芽を早めます。
- ・培土は萌芽後に降霜の恐れのあるときは、生長点が隠れる程度に土を寄せます。本培土は着蕾期頃 (7月上旬) までに完了。広く・深く土を寄せます。
- ・病虫害防除：病気は疫病の発生が多く、害虫ではアブラムシやテントウムシダマシ類の発生が多いです。早期発見、早期防除に努めましょう。



テントウムシダマシの被害と幼虫

2 収穫の目安

- ・株の黄変が進み、葉が殆ど無くなり、イモの周皮が完成した時期です。
- ・収穫後は、陰干しをして仮貯蔵し、11月中～下旬頃に本貯蔵します。